

報 告

## 第62回粘土科学討論会（早稲田大学）報告

山崎淳司

早稲田大学理工学術院

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

第62回粘土科学討論会は、平成30年9月10日(月)・11日(火)の両日、早稲田大学の西早稲田(理工)キャンパスにて開催されました。前週まで、西日本を中心とする大雨、大型台風20,21号の日本縦断、さらに直前には北海道胆振東部地震(M6.7,最大震度7)と立て続けの災害に見舞われ、多くの学協会の行事が中止となるなか、何とか開催期間中の天候が落ち着いたことも幸いして多くの方々に参加いただき、盛況のうちに開催することが出来ました。今回の討論会は、会場が都心の地下鉄駅から直結して交通の便が良い大学キャンパスで、シンプルに開催できたことはよかったですと思います。討論会への参加登録者は152名で、内訳は会員(正,シニア,名誉,共催・協賛・後援学協会会員を含む):112名,学生会員(共催学会学生会員を含む):20名,非会員:10名,学生非会員:10名でした。討論会では、口頭発表45件(内、一般講演34件,特別講演1件,会長講演1件,シンポジウム講演5件,提案型セッション4件),ポスター発表37件で合計82件の発表となりました。また、今回の討論会では、口頭発表16件とポスター発表16件の優秀講演賞の審査希望がありました。なお、本討論会への参加にあたり、日本粘土学会へ正会員11名と学生会員7名の新規入会がありました。

討論会前日(9月9日(日))には、同会場にて13時から第10回若手研究者研究発表会が開催され、招待講演2件(小暮敏博先生(東京大),由井樹人先生(新潟大)),若手講演2件,ポスター発表15件が行われ、41名の参加がありました。

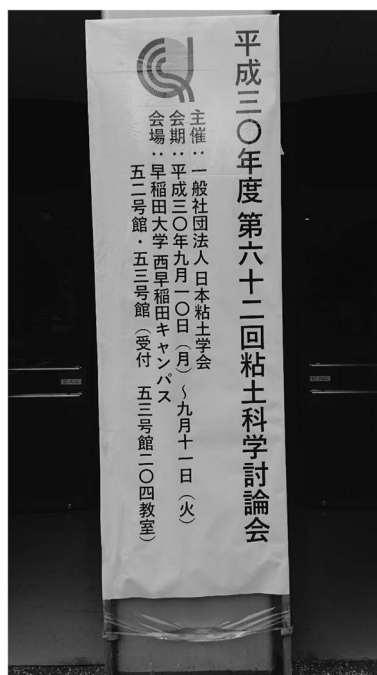
討論会1日目(9月10日(月))は受付を9時から開始しましたが、今回は参加者が基本的に学会ホームページからの事前参加登録と入金であったため、受付会場での混雑はほとんど見られませんでした。また、今回から講

演要旨集は冊子体を作成せず、USBメモリとプログラム印刷物のみを配布することにしたことも、受付の簡素化に効果がありました。9時半からA,B会場の2会場で一般講演の口頭発表が始まりましたが、開始から多数の方々が出席し、大きいトラブルも無く、また座長の皆様ご尽力と発表者の方々のご協力により、ほぼ予定通りに進行されました。その後、10時45分からA会場にて平成31年度総会と学会賞等の表彰式が行われました。総会は委任状含めて多数の出席者により定足数を十分に満たして成立し、すべての審議事項が滞りなく承認されました。それに続く表彰式では、以下の方々が受賞されました。学会賞:高木慎介会員,功績賞:坂本尚史会員,奨励賞:黒田義之会員,奨励賞:敷中一洋会員,技術賞:上原元樹会員,論文賞(Clay Science):K. Takahashi, R. Ishii, A. Suzuki, T. Nakamura, M. Yoshida, and T. Ebinaの各会員,論文賞(粘土科学):金城和俊会員・島田晴加会員,学術振興賞:東 裕貴会員。

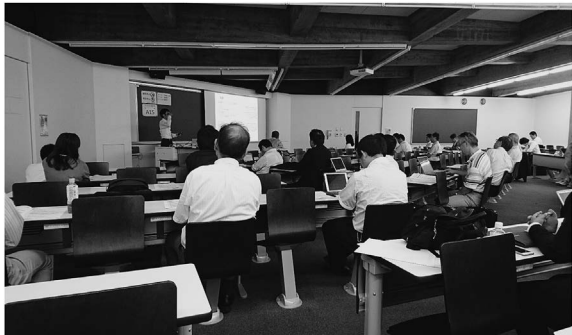
表彰式終了後の12時からは、別室にて平成31年度第1回理事会が開催されました。午後13時からは、八田珠郎会長から会長講演として「表面分析とバルク分析」のテーマで、あえて事前の講演要旨は提出されずに、これ



討論会会場(早稲田大学西早稲田キャンパス)



討論会の会場掲示



口頭発表会場 (A会場)



見学会 ((株)リガク拜島工場)



懇親会 (早稲田大学西早稲田キャンパス 63号館ロームスクエア)

まで研究されてきました。ESCA等を用いた主に鉱物の極表面からバルクまでの組成・性状に係る精密分析についての熱のこもったご講演をいただきました。続いて、虎谷秀穂氏((株)リガク)による特別講演「各結晶相の積分強度の和と化学組成から求める新しい定量分析法」が行われ、X線回折法を用いた粘土鉱物を含む造岩鉱物の新しい精密定量法Direct-Derivation (DD)法についてご講演いただきました。その後、約5分の休憩を経て、14時半過ぎより同会場にて「粘土周辺の無機材料」をテーマにシンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムは、亀島欣一会員、渡邊雄二郎会員を中心に企画され、各分野の第一線でご活躍されている5名の講師の方々にご講演いただいた後、総合討論が行われました。本シンポジウムの講演題目と講演者は、「層状アルカリケイ酸塩、チタン酸塩ならでの材料設計」：井出裕介会員(物材機構MANA)、「微細な層状水酸化物を利用したメソ・マクロ構造体の設計」：樽谷直紀会員(法政大)、「低シリカゼオライトの合成とその応用」：松本泰治会員(栃木県産業技術センター)、「ゼオライトの新規調製法～高速合成法～」：脇原 徹氏(東京大工)、「ポルトランドセメントを使用しないジオポリマー硬化体の配合、諸性質およびその開発」：上原元樹会員(鉄道総研)の5件でした。特別講演とシンポジウムの講演者の方々には、記念品として気軽にお使いいただきたいということで、早稲田大学オフィシャルグッズ「刺繍フェイスタオル」が贈られました。

シンポジウムの終了後は、キャンパス内にある食堂

(ロームスクエア)まで3分ほど徒歩で移動し、懇親会が催されました。参加者は92名(内、学生15名)でした。懇親会では実行委員の菅原義之会員(早稲田大)の司会進行で開会の辞を述べた後、山崎淳司実行委員長(早稲田大)が挨拶と開催状況のご報告を行い、開催地早稲田大学の代表として竹内 淳 理工学術院長によるご挨拶、八田珠郎会長(千葉科学大)のご挨拶に続き、黒田一幸前会長(早稲田大)による乾杯のご発声があり、用意された全国様々な日本酒を楽しんでいただきながら、和やかな歓談のひとつきもたれました。会の終わりには、次回開催地の埼玉大学から小口千明実行委員長からご紹介があり、河野元治 前常務委員長(鹿児島大)の中締めにより盛況のうちに閉会となりました。

討論会2日目(9月11日(火))は、9時から1日目と同じA, B会場の2会場に分かれて一般講演の口頭発表が行われ、その間にポスター発表会場でポスター掲示が行われましたが、掲示した先から早々に活発な議論が行われ始めたところ少なからずありました。12時からは別会場にて平成31年度第1回常務委員会が開催され、佐藤 努常務委員長が議長となり平成31年度の活動計画の検討が行われました。午後13時からはポスター発表が行われました。ポスター数の関係で発表のコアタイム(奇数の発表番号13:00~14:00, 偶数の発表番号14:00~15:00)が設定されましたが、発表者の方々のご協力によりポスター発表者同士も含めた活発な議論が円滑に行われました。ポスター発表時間の後、15時から再びA, B会場の2会場に分かれて一般講演の口頭発表が行われました。後半には、提案型セッションとして石田玉青会員(首都大東京)の企画による「粘土および類縁体を用いたナノ粒子の合成と機能」をテーマで4件の口頭発表が行われた後、時間を延長して活発な総合討論が行われました。

口頭発表が終わった後、学会誌(粘土科学, Clay Science)の編集委員会がそれぞれ2会場で開催され、無事予定を終えました。

翌日(9月12日(水))は、ポスト第62回粘土科学討論会として、分析機器メーカー(株)リガク様のご厚意により拜島工場の見学会(参加費無料)が開催されまし

た。本見学会は、分析機器メーカーの1社単独の企画ということと、同業他社の会員のご参加をお控えいただきたいとのことから、学会主催とせずに討論会実行委員会の独自企画とさせていただきます。当日は朝10時にJR・西武拝島線拝島駅にご参加者15名が集合し、徒歩で見学会場へ移動しました。始めに工場会議室で、XRF(WDS・EDS)による鉱物分析のテクニック、ハンドヘルドXRFによるフィールドでの地質・鉱物の化学組成分析、微小部XRDによる鉱物試料の微小部分析についてのご講演をいただき、昼食の後、3班に分かれてラボと工場見学ツアーを行い、また会議室に戻って市販の物性測定機器による最先端の分析技術に関する活発な質疑・応答が行われました。このため、予定時間を大幅に

超過してしまい、電車の時間で途中退出する方も何人がおられるほどでした。見学会終了のご挨拶で感謝の意が交換され、再び拝島駅に徒歩で移動して解散しました。あらためて、このような企画をいただいた(株)リガク様に御礼申し上げます。

また、本会の開催に当たり、プログラム印刷物へは4社に広告掲載のご援助を賜りました。今回の手作り感満載の討論会が盛況に開催できましたのも、惜しみなくご尽力・ご助力いただきました実行委員、学内外の関係者、アルバイト学生の皆様のおかげと感謝致しております。最後になりましたが、大変な状況の中でご参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。